

## 第2回福島県双葉郡子供未来会議 実施報告

### 1. 主催

福島県双葉地区教育長会

### 2. 日時・場所

平成25年10月13日(日) 10:00~16:30

会津大短期大学部体育館(大熊中学校仮体育館)(福島県会津若松市)

### 3. 参加者

85名

- ・福島県双葉郡の児童生徒 32名
- ・同保護者 15名
- ・その他関係者(双葉地区教育長会、福島大学学生、福島大学関係者、行政関係者等) 38名



### 4. 概要

双葉郡8町村の小中高校生32名が集まり、双葉郡教育復興ビジョンの具現化に向けて、保護者15名と福島大学学生ボランティアをはじめとした教育関係者38名も加わりながら、ワークショップを行った。比較的小学生が多かったことから、自由な雰囲気の中にぎやかに対話は進行し「最高の学校とは何か。最高の教育とは何か」について多くの意見や思いが話し合われた。

夢を叶えるための体験を重視した学校について多くのグループで議論が行われた。「将来の夢を見つけるきっかけとなる”小さな窓”があり、夢を叶えられる学校」をキーワードとしたグループでは、海外留学をはじめとした様々な体験の機会を設け、将来につながるきっかけをつかめる学校とする重要性が挙げられた。また、「鍛える学校」をキーワードとしたグループでは、夢を追求する自由があり、夢を実現するために鍛えられる学校とすることが重要という意見が挙げられた。また、「道徳」をキーワードとしたグループでは、分かり切ったことを教えるのではない驚きや気づきの道徳とすることが必要との指摘があり、社会で生きていく力を身に着けるために、生き物の飼育や外国の人とのコミュニケーションなどを取り入れてほしいという希望が挙げられた。

また、子供たちを中心とした子供たち主体の学校についても多くのグループで議論が行われた。「生徒と教師が対等な立場で共に創りあげる学校」をキーワードとしたグループでは、将来の夢や目標にあわせて勉強の内容を選べたり、給食にバイキングを取り入れる等、全ての子供の意見を取り入れる学校としたいという声があり、そのための委員会の設置や、子供自身が主体的に

動くことの必要性について指摘があった。また「学びあう分かり易い授業」をキーワードとしたグループでは、生徒の教えあいによるグループ学習の重視や、分かり易く学ぶための ICT を活用した授業としてほしいという意見が挙げられた。

また、多様性や個性を重視する学校についても複数のグループで議論が行われた。勉強や部活動の選択の幅があることや、小学校・中学校・高校が一体となった年齢の幅のある学校とすることで将来の目標を見つけられるという意見が挙げられた。

終わりに、前川文部科学省初等中等教育局長から「子供たちの意見は学習者主体の学びが重視されており、自ら学び、課題を発見し、行動する、まさに情報化や国際化のこれからの社会で求められる力とは何かに気づいている提案であった。学校の先生も子供たちと一緒に学ぶ学校の姿が見えてきた。文科省としては精一杯支援をしていく」と講評があった。また、森下福島県教委教育総務課長及び千葉福島大学人間文化発達学類長より、参加者の積極的な議論への感謝と、今日の議論を実現させていくという趣旨の講評が行われた。

閉会にあたり、武内双葉地区教育長会長（大熊町教育長）から、主催者として参加者及び関係者に御礼が述べられるとともに、一斉に覚えさせる授業からの転換等、明日からでも取り組むべき課題については早速取り組んでいく旨宣言がなされた。また、参加者に対しては、今日の話合いや学びの内容を是非周りの人にも伝えてほしいとメッセージが述べられた。今後対話の場を継続的に設けていくことが確認され、閉会した。

## 5. 主な意見

午後の冒頭、さらに深めて議論するテーマとして子供たちから15のテーマの提案が相次いだ。

（「夢を見つけられる、夢が叶う学校」「将来の夢ややりたいことを見つけるきっかけとなる小さな窓がある学校」「将来になりたい職業に進むための学校」「生徒と教師が対等な立場で共に創りあげる学校」「授業を皆で決める学校」「生徒で教え合う、勉強内容を選べる自由な学校」「自由な学校」「個性豊かな学校」「鍛える学校」「身体を動かす授業がある学校」「タブレットやPCで勉強ができる学校」「教科書ではなく ICT 等を使って学ぶ学校」「小中高一緒の学校」「給食がバイキングの学校」「給食にもっと力を入れる学校」）その後、主に下記のような議論が行われた。

（夢を叶えるために体験を重視する学校）

（1） 将来の夢を見つけるきっかけとなる「小さな窓」があり、夢を叶えられる学校

大熊町が進めている「希望の翼」事業による海外留学をはじめとした、様々な体験の機会から、将来につながるきっかけが見つけれられる。一流の人に話を聞くことや、社会に出て仕事を体験する機会や、学校の掲示物等、様々なきっかけを用意する学校としたい。きっかけをつかむ勇気のない子も居ることから、一歩を踏み出せるヘルプも用意していくことが必要。

夢を見つけた後では、夢を叶えるための体験学習を重視していくことが重要。学校での勉強は中学校段階で高校の部分も終わらせてしまい、高校では社会に出ての見学やインタビュー、海外での体験などに時間を使いたい。

（2） 鍛える学校

自由と鍛えることは相反するものではない。自由には、決まりからの自由と、夢を追及する自由の二つがある。夢を持ち追いかける時には学力も必要になるが、こうした学力を持ってこそその自由もあり得る。やみくもに自由ということではなく、自由を感じる雰囲気の中で夢を追いかけられるよう鍛えられる学校としたい。双葉郡の子供たちは避難によってある意味では家業の束縛からの自由があるとも言える。この機会に広い視野を持ち夢を叶えられる学校としたい。また、新しい学校には目玉となる取組も必要である。

(3) 道徳としてのコミュニケーションや生き物の飼育

社会に出て上手く生きていくためには、柔軟い価値観を持ち、自分に無いものと有るものを知り、自分に無い考えを吸収して判断する力が必要。人との会話や気遣いができるようにするためのコミュニケーション力、感謝・我慢・命への思いやり、夢を見つけるための努力等を学ぶことが必要。分かり切ったことを教えるのではない驚きや気づきの道徳とすることが必要であり、授業では生き物の飼育や外国の人とのコミュニケーションなどを取り入れてほしい。

(子供たち中心の学校)

(4) 生徒と教師が対等な立場で共に創りあげる学校

将来の夢や目標にあわせて勉強の内容を選べたり、給食もリクエスト給食や月に1度のバイキングがある等、全ての子供の意見を取り入れる学校とする。そのためには少数意見を聞くことを大切にして、意見を出す場や、そのための委員会を創ることが必要。こうした願いをかなえるためには子供も自分から動かななくてはいけない。もっと早く話し合いをして学校に取り入れたかった。

(5) 学びあう分かり易い授業

授業内容についても、内容を皆で決められたり、週に1回生徒の教えあいによるグループ学習の時間があったり、分かり易く学ぶためにタブレット等のICTを活用する授業を行ってほしい。

(多様性と個性を大切にする学校)

(6) 個性豊かな自由な学校

一人一人を大切にする、自由な個性を發揮できる学校としたい。色々な勉強や部活ができることも個性を發揮することにつながる。服装や髪形も自由としても良い。

(7) 毎日皆と笑いあえる学校

ケンカをしてもすぐに仲直りして毎日笑いあえる学校が良い。親は学校を勉強第一で考えているが、子供たちは楽しい場所であるという点を大切に考えている。

(8) 小学校・中学校・高校が一体となった年齢の幅のある学校

目の前の先輩がいることが将来の見通しを持つことにもつながることから、新しい学校には子供が集まるのが重要である。異なる年齢の子供同士で交流したり勉強会ができたたりする学校となると良い。小中高が同居する校舎の配置や体育館の数まで具体的にイメージを膨らませながら議論をした。

(施設や設備の充実)

(9) 特別教室や遊具が充実している学校

現在の避難先の学校よりも図書室、音楽室等の特別教室や、遊具がたくさんあり、施設が充実した学校が良い。また、図書室は本の数も充実させて欲しい。

《参考：参加者詳細》

○参加者 47名

・福島県双葉郡の児童生徒及び保護者 合計20名

葛尾村 1名（小学生0、中学生0、高校生0、保護者1）

檜葉町 0名（小学生0、中学生0、高校生0、保護者0）

大熊町 44名（小学生15、中学生13、高校生3、保護者13）

浪江町 0名（小学生0、中学生0、高校生0、保護者0）

双葉町 0名（小学生0、中学生0、高校生0、保護者0）

広野町 0名（小学生0、中学生0、高校生0、保護者0）

川内村 2名（小学生1、中学生0、高校生0、保護者1）

富岡町 0名（小学生0、中学生0、高校生0、保護者0）

・その他関係者 38名

福島県双葉郡8町村 教育長、各町村教育委員会関係者、

福島大学ボランティアスタッフ、福島大学関係者、福島県教委、文部科学省

《参考：日程詳細》

平成25年10月13日（日） 10:00～16:10

10:00～10:10 開会挨拶・「双葉郡教育復興ビジョン」の紹介 浪江町畠山教育長

10:10～12:00 午前の部（ワールドカフェ）

10:10～10:15 午前の部進行説明

10:15～10:45 「双葉郡の私達にとって最高の学校・最高の教育」について  
小学生、中高生、保護者、大人のグループに分かれて話し合い

10:50～11:45 グループを移動、上記テーマについて年齢の区別なく話し合い

11:45～12:00 元のグループに戻って議論の共有

12:00～13:00 休憩

13:00～15:15 午後の部（オープン・スペース・テクノロジー）

15:15～15:50 イブニングニュース

15:50～16:00 アンケート記入

16:00～16:05 講評（文科省前川初中局長、福島県教委森下課長、福島大学千葉人間発達文化学類長）

16:05～16:10 閉会挨拶 大熊町武内会長

